



JANPIAの事後評価ハンドブック

- <https://www.janpia.or.jp/hyouka/>
こちらから「事後評価ハンドブック」をDLしてください。



今回の講座の目的

- ▶「事後評価」の**基本**について確認、
- ▶**実践(やればできる!)**の基礎づくり。
- ▶7月までに、事後評価をはじめる**きっかけ**となる。

(参加型で一緒に考えます。短い講座なので今日で完璧にできなくても大丈夫です。**きっかけ**として考えてください)

今日のプログラム

- 1) 評価とは?
- 2) 評価の流れ
- 3) 評価対象の把握
- 4) 評価設計
- 5) 調査法
- 6) 分析法
- 7) 結論(提言・教訓)

評価とは？

EVALUATION

- ▶ 様々な定義があります。

「体系的かつ客観的に、物事の意義、値打ち、あるいは重要性を明らかにすること」

(評価学の権威: Scriven スクリヴィン, 1980)

「実施中、或いは既に終了したプロジェクトに関して、評価6項目の観点から調査し、当該プロジェクトの計画内容の修正(提言)や類似プロジェクトの計画立案や実施・評価に役立てること(教訓)」

(国際協力の評価: JICAのガイドラインより)

「政策評価とは、国の行政機関が主体となり政策の効果等に関し測定または分析し、一定の尺度に照らして客観的な判断を行うことにより、政策の企画立案やそれに基づく実施を的確に行うことに資する情報を提供すること」

(国土交通省のHPより)

評価とは?.....基本は.....

- ▶ 評価の原義は「価値を引き出す」
- ▶ Evaluation = E- **Value**-ation (価値化)
- ▶ 評価には価値判断が伴う
 - 1. 達成度を調べる
 - 2. それが良かったのか悪かったのか価値判断
 - (3. 改善への提言・教訓)

評価 = 事実特定 + 価値判断

(Evaluation)

(Factual identification)

(Value determination)

測定 ≠ 評価

モニタリングと評価の違い 語源から理解してみましょう

■ モニタリング: Monitoring: Monitor

- 見る、見守る
- 意図したことになっているか



■ 評価: Evaluation : E-value-ation

- 価値(Value)を評する。
- 良いか、悪いか



評価の目的

🔍
評価の
実施

📊
成果の
可視化

🚩 3つの目的

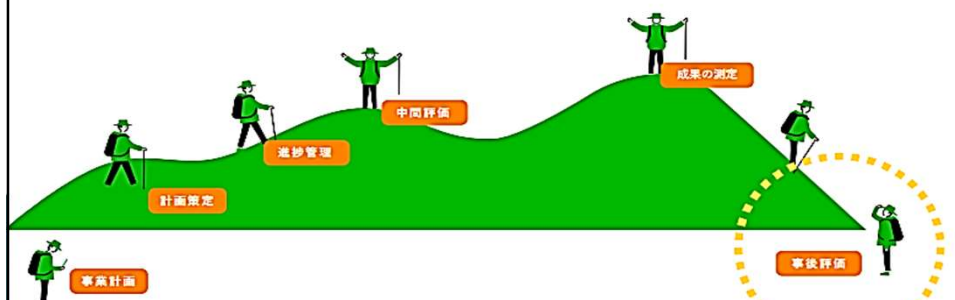
1 国民の理解を得る

2 事業の資源配分に反映する

3 活動の質の向上や発掘、
民間資金や人材の獲得

評価の段階、事後評価の役割

- ▶ 事業終了にあたり、成果をとりまとめるために行うのが「事後評価」。
- ▶ 事業の結果を総括する。とともに、取り組みを通じて得られた学びを今後に生かせるよう、提言や知見・教訓を整理するために行います。



今日のプログラム

- 1) 評価とは?
- 2) 評価の流れ
- 3) 評価対象の把握
- 4) 評価設計
- 5) 調査法
- 6) 分析法
- 7) 結論(提言・教訓)

評価とは、価値判断の前に**事実特定**する(根拠)が必要不可欠。

「評価は物事の本質、価値、意義を体系的に明らかにすることである」 (Scriven)

“Evaluation is the systematic determination of merit, worth and significance of things”

評価

=

事実特定

+

価値判断

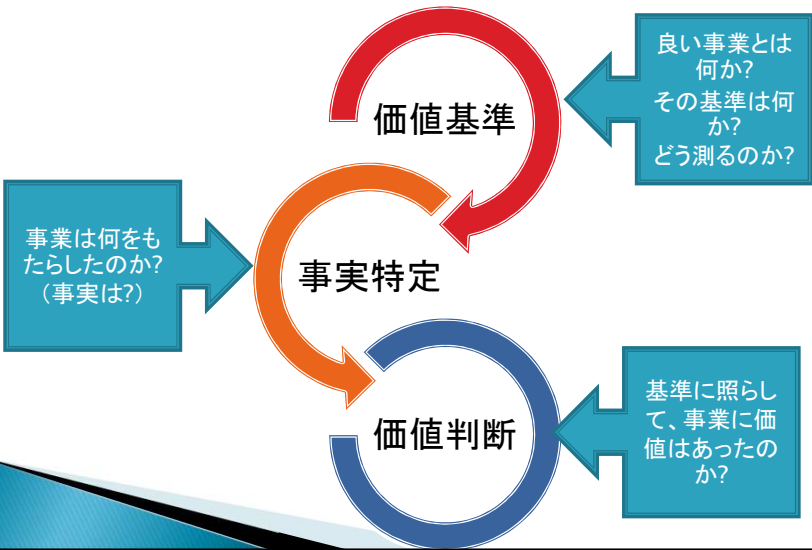
(Evaluation)

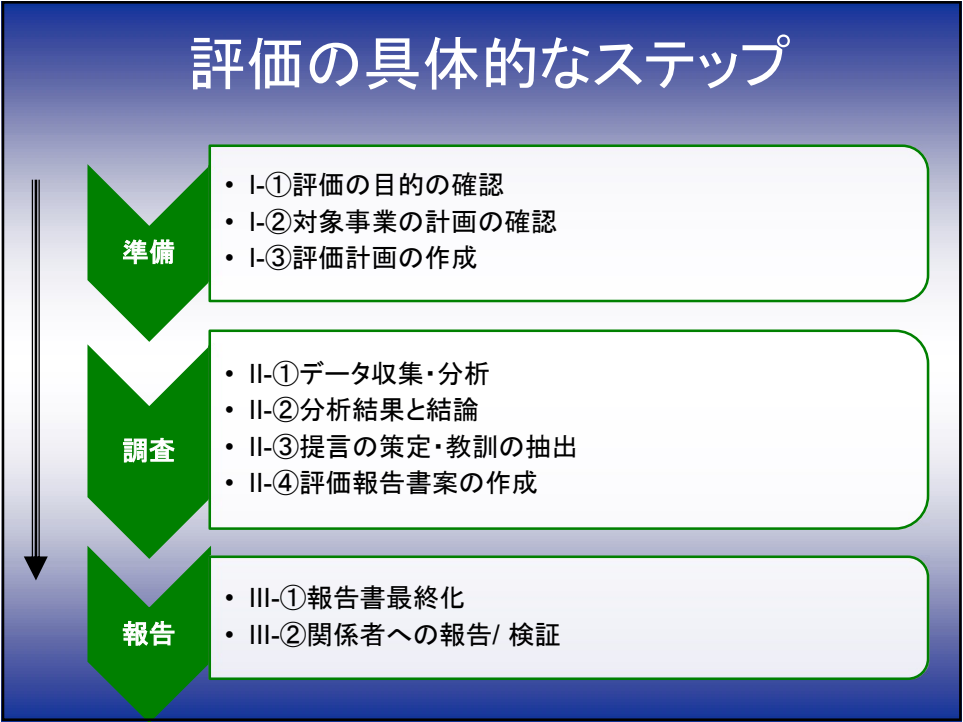
(Factual identification)

(Value determination)

測定 ≠ 評価

評価 = 価値を事実に基づいて判断する





今日のプログラム

- 1) 評価とは?
- 2) 評価の流れ
- 3) 評価対象の把握
- 4) 評価設計
- 5) 調査法
- 6) 分析法
- 7) 結論(提言・教訓)

評価のステップ

準備

- I-①評価の目的の確認
- I-②対象事業の計画の確認
- I-③評価計画の作成

調査

- II-①データ収集・分析
- II-②分析結果と結論
- II-③提言の策定・教訓の抽出
- II-④評価報告書案の作成

報告

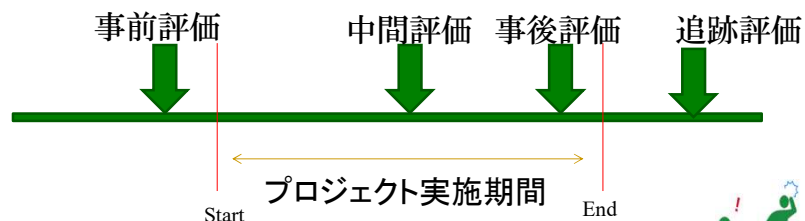
- III-①報告書最終化
- III-②関係者への報告/ 検証

準備フェーズ

- I-①評価の目的の確認
- I-②対象事業の計画の確認
- I-③評価計画の作成

I-①評価目的及び対象事業の全体像の確認

- 評価もそれぞれ目的が違う。

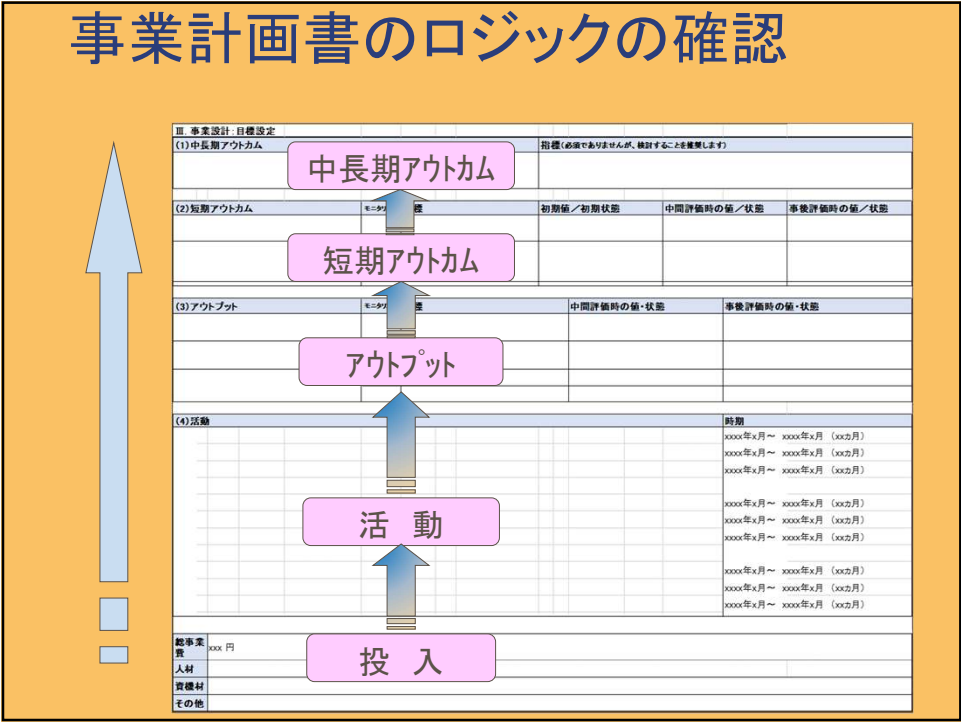


- プロジェクトの背景を知り、評価に託された課題(=目的)を知る。(依頼者との話し合い)

- I-①評価の目的の確認
- I-②対象事業の計画の確認
- I-③評価計画の作成

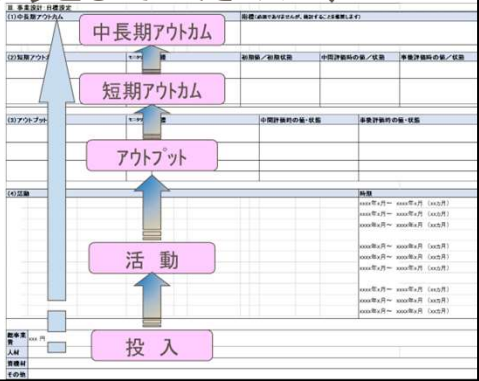
[illegible]

事業計画書のロジックの確認



評価の前提: ロジックモデルの確認

- 事業の達成度をみる・測るときに、
- もともと、なにを達成しようとしていたのか、
- どうやって、達成しようとしていたのか、
- ロジックで理解し、
- 全体像を把握することが必要です。
- 道具としてロジックモデルは便利!

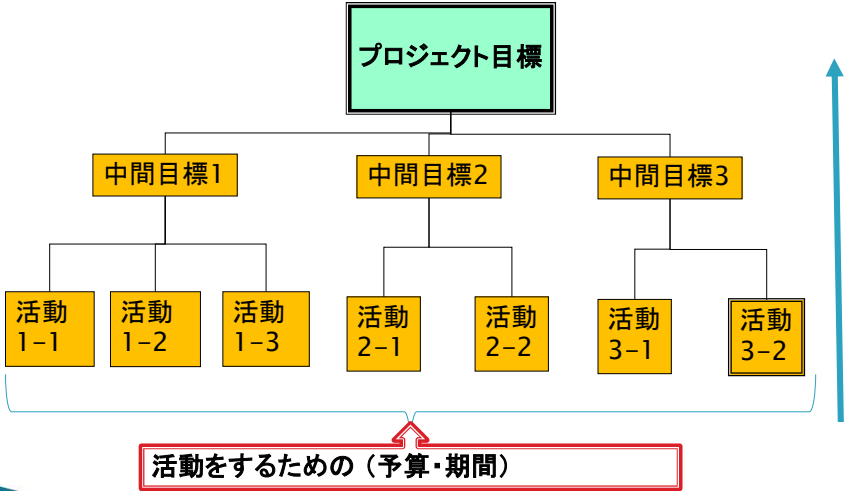


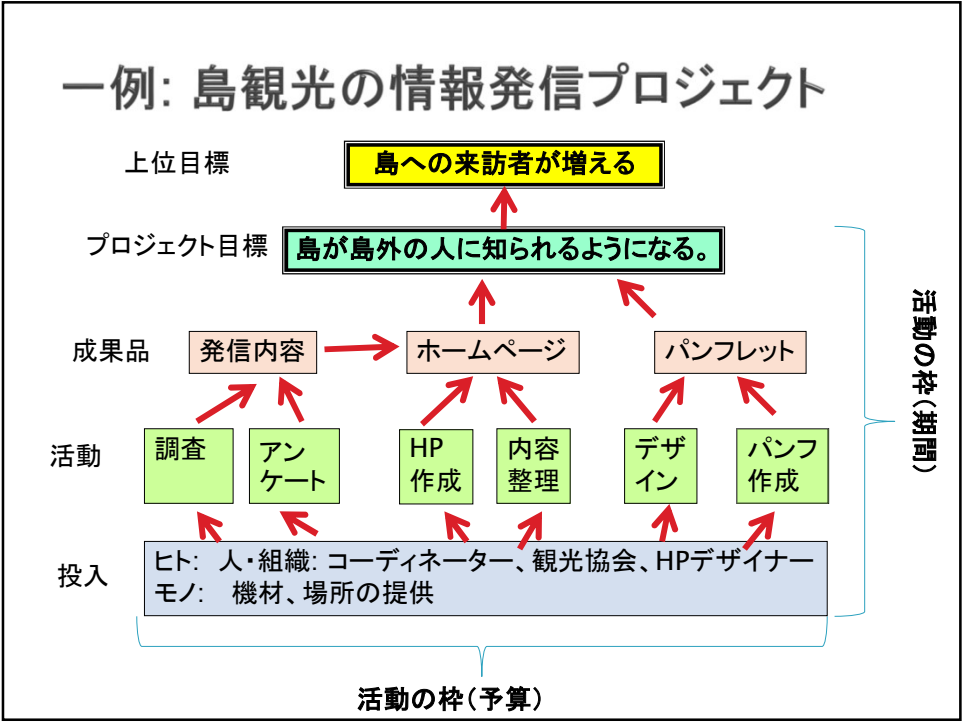
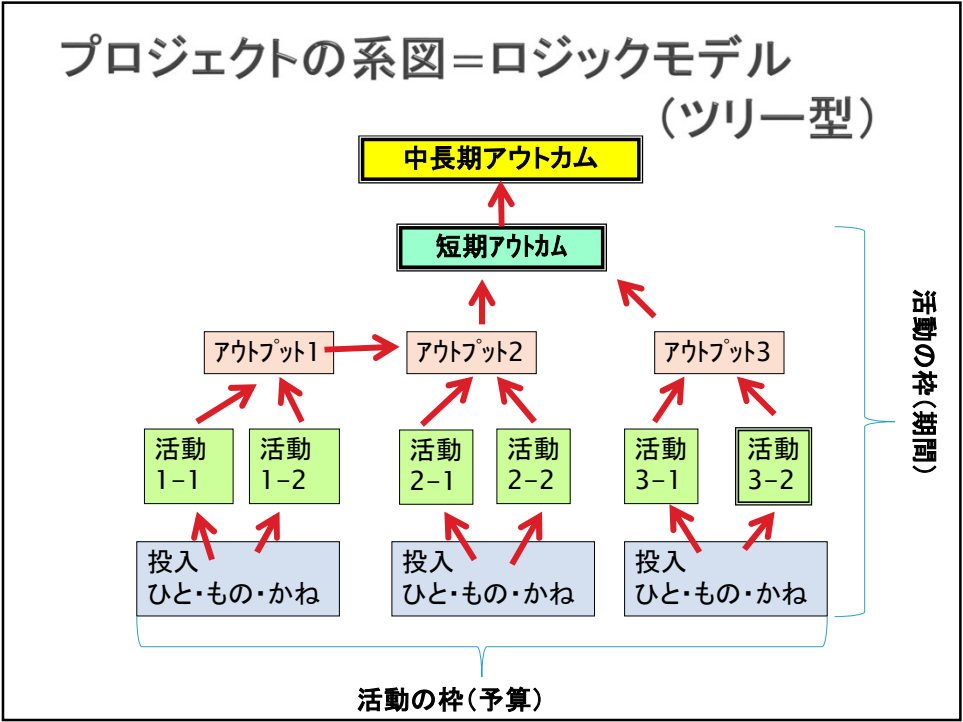
ロジックモデルのレビュー

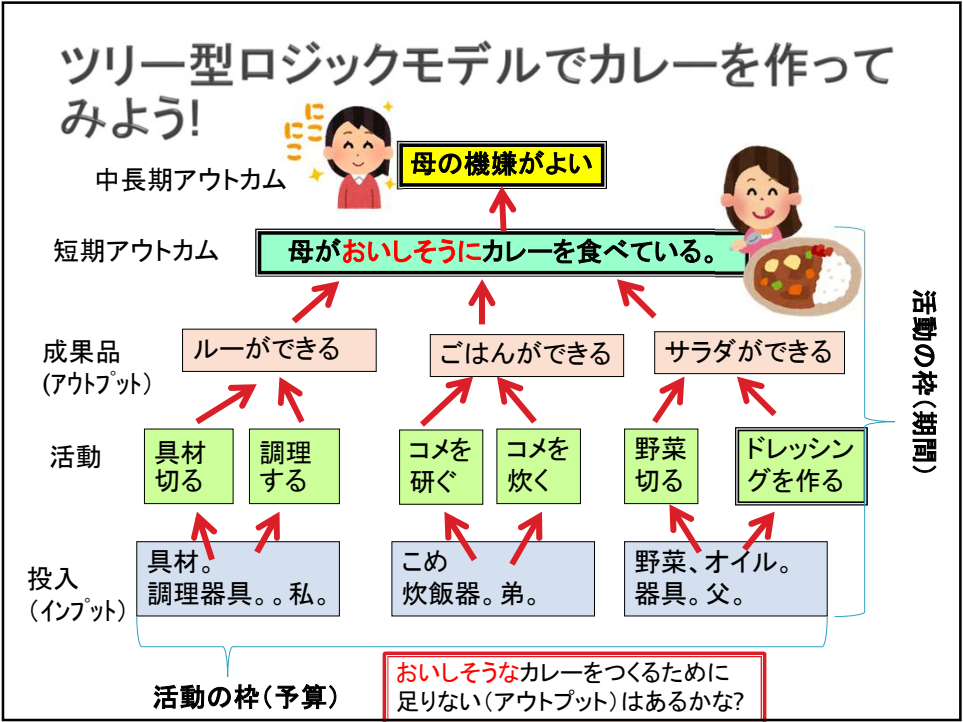
- 但し、既存のロジックモデルそのものが複雑であつたり、現状とかけ離れている場合には、評価がすぐにできないこともあります。
- その場合には、既存から簡易なロジックモデルをつくる(再構築)と評価がしやすくなります。



プロジェクトの基本形= ロジック







休眠預金活用事業のロジックモデルのレビュー……

- ▶ 自分の事業のロジックモデルがありますね。
- ▶ ロジックモデルをみて、ご自身が納得してますか?
- ▶ それで、第三者・一般に説明ができますか?
- ▶ YESの場合は、そのまま次のステップへ
- ▶ Noまたは??の場合は……
- ▶ ロジックモデル(簡易版: ツリー型のロジックモデル)をつくりながら事業を再確認します。

プロジェクトの系図=ロジックモデル (ツリー型)

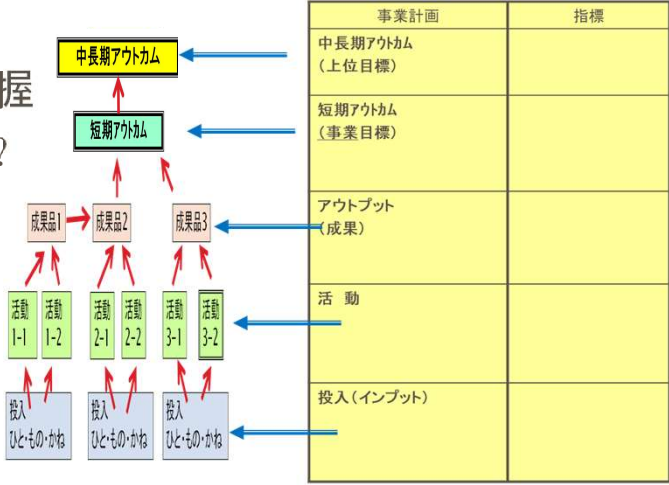
複雑なロジックモデル

簡易なロジックモデル(ツリー型)

ミニ演習

- 事業計画書や既存のロジックモデルをみて、ロジックモデル(簡易版)を作ってみましょう。
- 理解・把握
できますか？

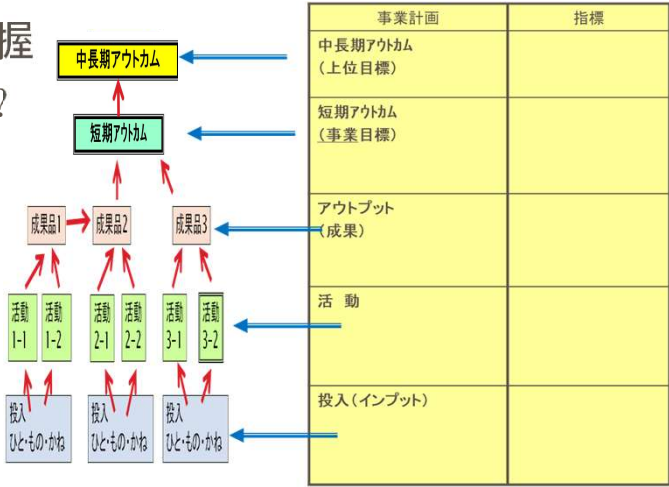
研修の当日に
やります!
その前に
...



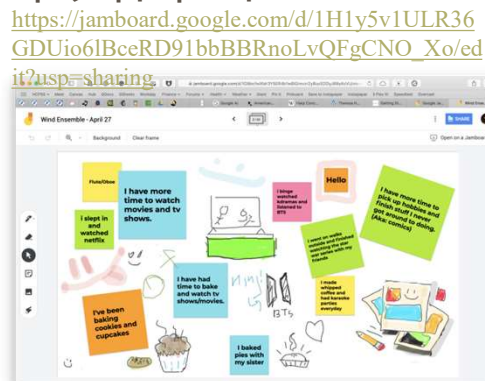
ミニ演習

- 事業計画書をみて、ロジックツリーを作ってみましょう。
- 理解・把握
できますか？

研修の当日に
やります!
その前に
...



- ジャムボードはグーグル社が提供する
- 無料のオンラインホワイトボード
- ポストイット
- ペン
- 写真も張れます
- 基本機能のみ
- なので簡単!



各自、自分のチームのプロジェクトのツリーで「把握」してみましょう。ロジックで把握できますか？「???」な活動とかありましたか？

事業計画	指標
上位目標 (遠いアウトカム)	
事業目標 (アウトカム)	
成果 (アウトプット)	
活動	
投入 (インプット)	

MIROに入ってみましょう。

- それぞれの事業計画書+既存のロジックモデルをもとに
- 言葉を書き出して(なるべく簡潔に)
- 中長期アウトカム
- 短期アウトカム
- アウトプットまで、書いてみましょう

MIROへのリンク

https://miro.com/welcomeonboard/bXdqalRCTmFkNGU4MUI3WkNkTlo5eW9qZjM2Z21YT3dWQmIxbUpDNVpNVTFRd3pPNHVkeVhscXdxEp1RIA2NnwzMDc0NDU3MzQ3NjEwNTgyMjE1fDI=?share_link_id=602392587215

今日のプログラム

- 1) 評価とは?
- 2) 評価の流れ
- 3) 評価対象の把握
- 4) 評価設計
- 5) 調査法
- 6) 分析法
- 7) 結論(提言・教訓)

準備フェーズ

- I-①評価の目的の確認
- I-②対象事業の計画の確認
- I-③評価計画の作成

I-②評価のデザイン



- 評価の目的に合わせて、評価のデザイン=どう評価をするか考える。
- ①測定対象の選定
- ②測定方法の明確化
- ③測定に必要な資料などの準備
- ④集計方法の具体化
- ⑤分析方法の具体

評価のデザイン表 “評価設計書(評価グリッド)”

03.3 評価デザイン

ロジック レベル	①測定対象	②測定方法	③事前準備	④集計方法	⑤分析方法
中長期アウトカム					
短期アウトカム					

評価調査デザイン。
評価チーム及び関係
者で協議し共有する。

今回の練習 ざっくりとデザインしてみよう

レベル

測定対象

測定方法

準備など

JAMBOARDに入ってみましょう。

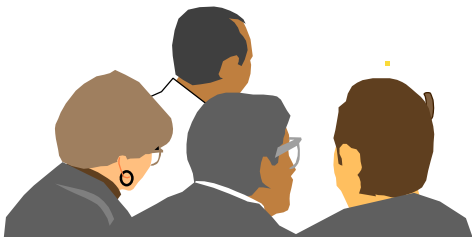
- ロジックモデルと事業計画書をもとに
- ①レベル
- ②測定対象
- ③測定方法
- 時間があれば④集計方法/ ⑤分析方法
を”一つだけ”書いてみましょう。まずは慣れる

今日のプログラム

- 1) 評価とは?
- 2) 評価の流れ
- 3) 評価対象の把握
- 4) 評価設計
- 5) 調査法
- 6) 分析法
- 7) 結論(提言・教訓)

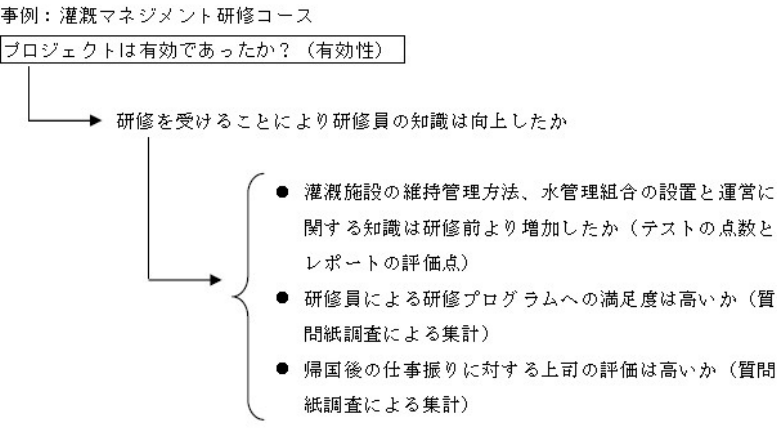
評価設計書(評価グリッド)の作り方

評価項目	評価設問 (メイン)	評価設問 (サブ/具体的)	収集/分析 方法	結果

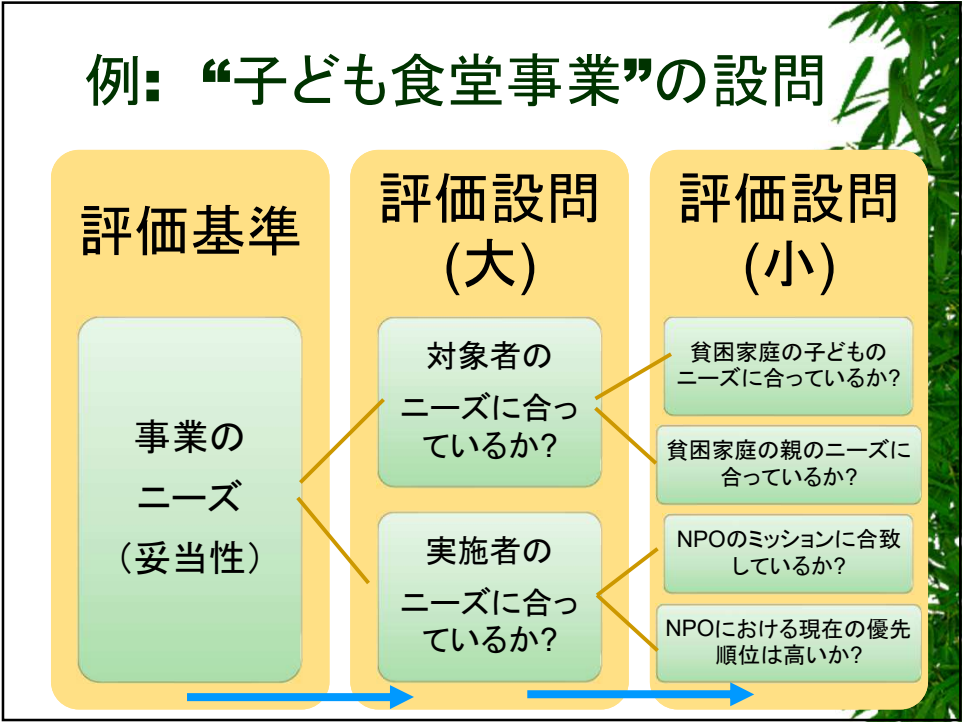


事例をみてください。
中身はとにかく、こんなイメージ。

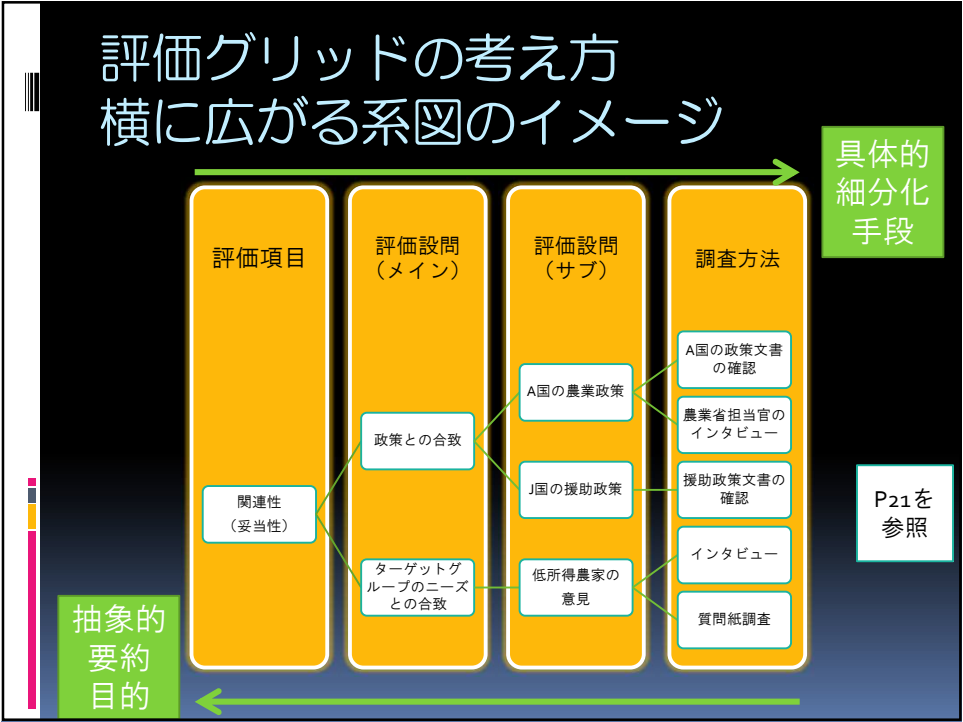
評価設問を明確化する 評価設問(メイン)→評価設問(サブ)

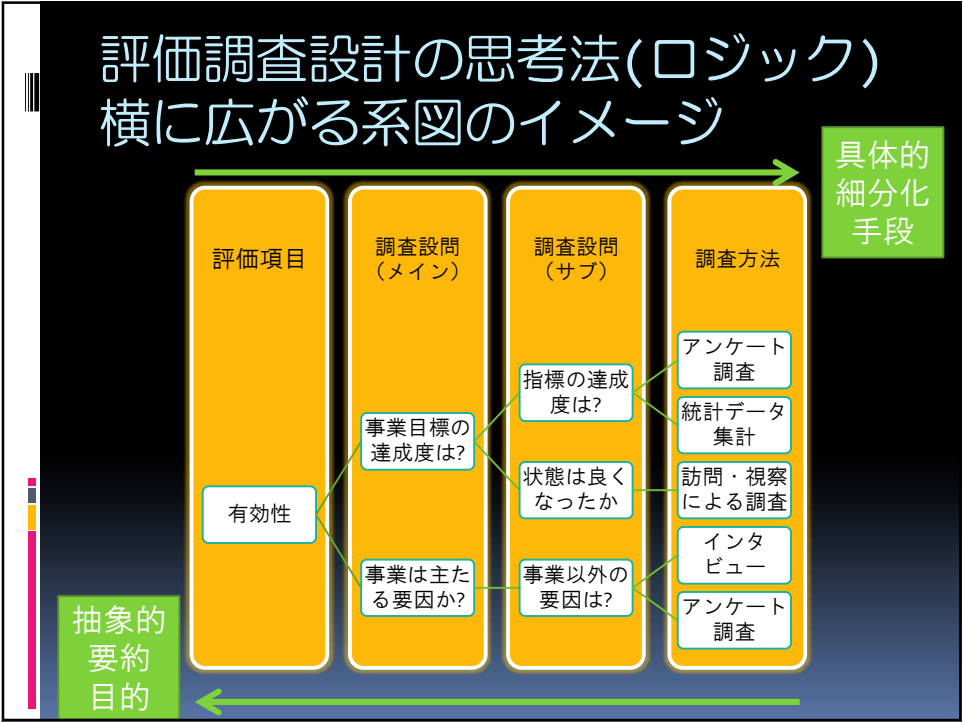


例：“子ども食堂事業”の設問



評価グリッドの考え方
横に広がる系図のイメージ



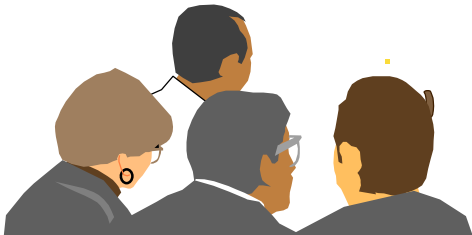


今日のプログラム

- 1) 評価とは?
- 2) 評価の流れ
- 3) 評価対象の把握
- 4) 評価設計
- 5) 調査法
- 6) 分析法
- 7) 結論(提言・教訓)

評価グリッドの収集分析方法

評価項目	評価設問 (メイン)	評価設問 (サブ/具体的)	調査手法	具体的な 方法
			文献調査
			質問票



データ収集法

- a) 統計、文献、既存資料のレビュー
- b) 観察
- c) 測定/ テスト
- d) 質問紙調査(アンケート調査)
- e) インタビュー調査
- f) フォーカス・グループ・ディスカッション
- g) ワークショップ形式(RRAなど)



データ収集法

統計、文献、既存資料のレビュー

- 報告書、モニタリング記録、関連分野の文献、統計データなどのレビュー



観察

- 人々の行動様式、インフラ、施設・機材の状況、プログラムのサービス提供現場などを直接観察する方法
- あらかじめチェックリストを作成したり、定点観測をすると定量化も可能



データ収集法

測定/テスト(どちらかというと言的データをとるため)

- 評価の指標を標準化された方法、機器により測定する方法
- 対象者にテストをしてもらう。



質問紙調査(アンケート調査)

- 質問票を用いて同じ質問を対象者全員に行う方法
- 自記式と他記式がある
- 選択回答方式と自由回答方式がある



アンケート(質問票)調査1

- ▶ アンケートは多数の対象者に対してデータを収集できる。
- ▶ 自記式と他記式がある。
- ▶ 通常は「紙」を使う。
- ▶ 最近は i-pad・・・
- ▶ さらに、インターネットが主流に。



iPad向けのきれいなアンケートを作る

GOOGLEフオー ム活用

紙をつかわない質問票

今回はみなさん知っ
ているのでスキップ
(でも実行団体には
便利)

さまざまなネット利用のアンケート

- ▶ **Google フォーム**
https://www.google.com/intl/ja_jp/forms/about/
- ▶ **CubeQuery:**
<http://www.cubequery.jp/>
- ▶ **アンケートツクレール**
<http://eng-maker.com/>

Google フォーム

- ▶ 見やすい画面構成
 - ▶ 感覚的につくることができる。
 - ▶ 自由度が高い
 - ▶ 集計結果をグラフで表示
 - ▶ 生データもエクセルに出せる。
- ▶ Googleのアカウント(gmail)が必要
- ▶ Google に利用されるかもしれない。
- ...。(憶測ですが)



演習: ネットでアンケートを作ってみましょう!

- Google (gmail)アカウントを持っている人は、Google フォームを使って、アンケートを作ってみましょう。
- アンケートを一つ作ってみましょう。
- できるだけ、すべてのスタイルをつかってみましょう。



アンケート(質問票)調査2

- ページ数は最低限に。
- とりあえずきこう。←ダメ
- 質問は的を絞れるだけ絞り、質問や回答欄を明確にする。(ロジック)
- 量的なデータ(例: 収入)と質的なデータ(例: 満足度)があるが、分析のしやすさを考慮し、可能なかぎり量的なデータをとれるようにする。



アンケート(質問票)調査3

- 質的なデータをとる場合でも、記述式(例: 研修に満足した理由は?)と選択式(例: 以下から満足した理由を選んでください)があるが、できるだけ選択式にする。
- ただし、状況が全く分からない中で選択式質問をつくと重要な視点を逃す危険性もあるため、インタビューやグループディスカッションをしたり、または質問票の案をつくり少人数で事前にテストしたりするなど、工夫が必要。
- (調査との組み合わせ)



データ収集法2

インタビュー調査

- 個人インタビュー、グループ・インタビュー
- 構造化インタビュー、非構造化インタビュー



フォーカス・グループ・ディスカッション

- 6～12人程度から構成される比較的同質的な人々のグループで、あるテーマ(質問項目)について討議を通して見解を出していく方法
- 記録と”観察”→気づき



インタビューでの注意点



- 背景・目的・時間・条件を伝える。
- 雰囲気づくり、を大切に。
- 簡単なことから、難しいことへ。
- 質問をしっかりと計画。
- 但し、実践では、計画ムシすることもあり。(分析でなんとかなる)
- 記録は早めに。("共有"により 補正する。)

演習

ほめる!!
「素敵な～
ですね!」



- インタビューをしてみましょう。
- 4人で一組になります。(1,2,3+4と名前の後につける)
- 1人の回答者に、3分間のインタビューを行います。
- 一人は質問をすること、回答を促すことに全力集中。
- もう一人は回答を記録することに全力集中。
- インタビューの目的「空き店舗の利点と欠点」
- 質問1: 空き店舗に入られましたか? どんなご商売を?
- 質問2: なんで入ったのですか? (入らなかったのですか?)
- 質問3: 課題/欠点はありますか? どう改善したらいいですか?
- 回答は手元ノートに記録する。(キーワードだけでもいい。)
- 終わったら、次の人がインタビューを受ける。(3分間)

オンライン

記録フォームは、GOOGLE DOCをつかってみましょう。(実験)

記録者	回答者	質問1	質問2	質問3	ストーリー
A	Bさん				
B	Cさん				
C	Aさん				
共通項					

<https://docs.google.com/document/d/12mSdwPg1JQXztTUCCPaHqycZUDdMyFm1c2>

フォーカス・グループ・ディスカッション



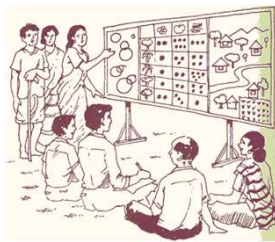
https://www.youtube.com/watch?v=j_cUnlQI29Q

- 以下のことを考えてください。
- Q1. なにをテーマに話し合っていますか？
 - Q2. どんな人たちが集められて、どのように座っていますか？
 - Q3. これを主催した人は誰で、何のためにやってるのでしょうか？

RRA

(RAPID RURAL APPRAISAL:迅速農村調査法)

- 1970年代後半に導入された地域研究-調査手法
- 現在は、PRA (Participatory Rural Appraisal)、PLA (Participatory Learning and Action) に
- インタビューや観察のほか、ソーシャルマップ、タイムライン (年表)、日課表、ベン図 (社会関係図)、総当たりランキングなどの様々な手法 (非言語/言語ツール) を利用



RRAの事例



<https://www.youtube.com/watch?v=KbGv4gLsGZ0>

以下のことを考えてください。

Q1. いくつかの手法が紹介されていますか？書き出してみましょう。

Q2. どんな人たちが参加して、どのように参加していますか？

Q3. 日本でまたは自分のフィールドで使えそうなツールはありましたか？

データ収集法 ふりかえり
(それぞれの利点と欠点は?)

- a) 統計、文献、既存資料のレビュー
- b) 観察
- c) 測定/ テスト
- d) 質問紙調査(アンケート調査)
- e) インタビュー調査
- f) フォーカス・グループ・ディスカッション
- g) ワークショップ形式(RRAなど)

評価設問に答えられるようにデータ収集方法を考える。

評価設問	必要なデータ・指標	情報源	データ収集方法	比較基準

・合目的性/ 容易性/ 信頼性 /妥当性

収集方法とデータの種類

量的データ= 年収、速度・時間、満足度

質的データ= 出来事、雰囲気、満足したこと

	質問紙調査		インタビュー調査		フォーカス・グループ・ディスカッション	観察	
	選択式	自由回答式	構造化	非構造化		チェックリスト使用	視察、状況把握
量的データ	○		○			○	
質的データ		○		○	○		○

演習

目的に合うように、調査方法を考えてみましょう。

評価項目	評価設問 メイン	評価設問 サブ	調査方法
有効性	メイン設問	サブ設問1	調査1-1
			調査1-2
		サブ設問2	調査2-1
			調査2-2

データのサンプリング



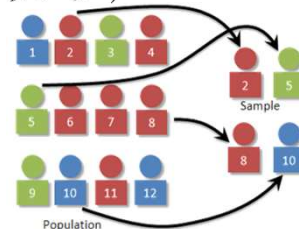
- 情報提供者の規模が小さければすべての対象について必要なデータを集めることができる(全数調査)。
- 不特定多数の受益者や大規模な人数の関係者に対する調査を行う場合には、まず母集団の範囲を確定し、さらにサンプリングによって標本を集める。(標本調査)
- 標本からデータを収集・分析し、その標本の分析によって得られた情報を基に母集団の推定を行う。

標本調査(サンプリング)

- 全数調査(センサス)
- 標本調査(サンプリング)

◆無作為抽出(統計的サンプリング)

- 単純無作為抽出
- 等間隔抽出
- 多段抽出(便宜上)
- 層化抽出(カバー目的)



◆有意抽出(理論的サンプリング)

- ◆ 調査に”貢献”できる回答者を選ぶ。質的データで利用。結果の一般化ではなく、主題や概念、現象を詳細に理解することを目的。

どれだけ集めればいいのか？ (実用的サンプリングの考え方)

- $n = N \div [(\epsilon/\mu(\alpha))^2 \times \{ (N-1)/\rho(1-\rho) \} + 1]$
 - n : 必要サンプル数
 - $\mu(\alpha)$: 信頼度 $100-\alpha$ のときの正規分布の値、信頼度が高いほど高くなる。
通常は信頼度95%の1.96か、信頼度99%の2.58をつかう。
 - N : 調査したい母集団の大きさ
 - ϵ : 精度(許容誤差)
 - ρ : 母比率(これは経験的に求めるか、最も n が大きくなる0.5を用います)
- 例: 母集団10万人。信頼度を95%として、 $\mu(\alpha)=1.96$ 。精度を上下3%とし、 $\rho=0.5$ とします。
必要サンプル数は、
 $n = 100000 \div [(0.03/1.96)^2 \times \{ (99999)/0.25 \} + 1]$
 $= 1056$ 人

母集団	100 人	1000 人	1 万人	10 万人	100 万人	1000 万人
サンプル数	92 人	516 人	964 人	1056 人	1065 人	1067 人

出典:http://www.nsspirit-cashf.com/logical/toukei_kiso.html

http://www.openepi.com/

OpenEpi provides statistics for counts and stratified analysis with exact confidence limits and power calculations, random number statistics, $R \times C$ tables, chi-square for dose-response, etc.

OpenEpi is free and open source software for web server or downloaded and run without a program. It is written in JavaScript and HTML, and runs on Mac, and PC browsers, regardless of operating system (allowing JavaScript). The programs are available for Android cellphones.

Test results are provided for each module so as a good idea to check important results with hundreds of Internet calculators are provided. Help | OpenEpiIntro on the menu.

The programs have an open source license. Some of the components from other source files. Licenses referred to are available in full development was supported in part by a grant from Emory University, Rollins School of Public Health.

A toolkit for creating new modules and for testing modules.

Andy Dean would like to collaborate in this way. Suggestions, comments, and expressions of interest to: andydean@gmail.com, cdckms@sphemory.edu, and msoe@cdc.gov

Suggested citation: Dean AG, Sullivan KM, Soe MM. OpenEpi: Open Source Epidemiologic Statistics for Public Health. *PLoS ONE* 2010;5(12):e12167. doi:10.1371/journal.pone.0012167

Expand AllCollapse

Home

Info and Help

- Language/Options/Settings
- Calculator

Counts

- Std.Mort.Ratio
- Proportion
- Two by Two Table
- Dose-Response
- R by C Table
- Matched Case Control
- Screening

Person Time

- 1 Rate
- Compare 2 Rates

Continuous Variables

- Mean CI
- Median/%ile CI
- t test
- ANOVA

Sample Size

- Proportion
- Unmatched CC
- Cohort/RCT
- Mean Difference

Power

- Random numbers

Searches

- Google--Internet
- PubMed--MEDLARS
- Internet Links
- Download OpenEpi

StartEnterResultsExamplesHelp

ClearCalculate

Sample Size for % Frequency in a Population (Random Sample)

Population size	1000000	If large, leave as one million
Anticipated % frequency(p)	50	Between 0 & 99.99. If unknown, use 50%
Confidence limits as +/- percent of 100	5	Absolute precision %
Design effect (for complex sample surveys--DEFF)	1.0	1.0 for random sample

StartEnterResultsExamplesHelp

Sample Size for Frequency in a Population

Population size(for finite population correction factor or fpc)(N): 1000000
Hypothesized % frequency of outcome factor in the population (p): 50%+-5
Confidence limits as % of 100(absolute +/- %)(d): 5%
Design effect (for cluster surveys--DEFF): 1

Sample Size(n) for Various Confidence Levels

ConfidenceLevel(%)	Sample Size
95%	384
80%	165
90%	271
97%	471
99%	664
99.9%	1082
99.99%	1512

Equation
Sample size $n = [DEFF * N * p(1-p)] / [(d^2 / Z^2 * 1 - \alpha / 2 * (N-1) + p * (1-p))]$

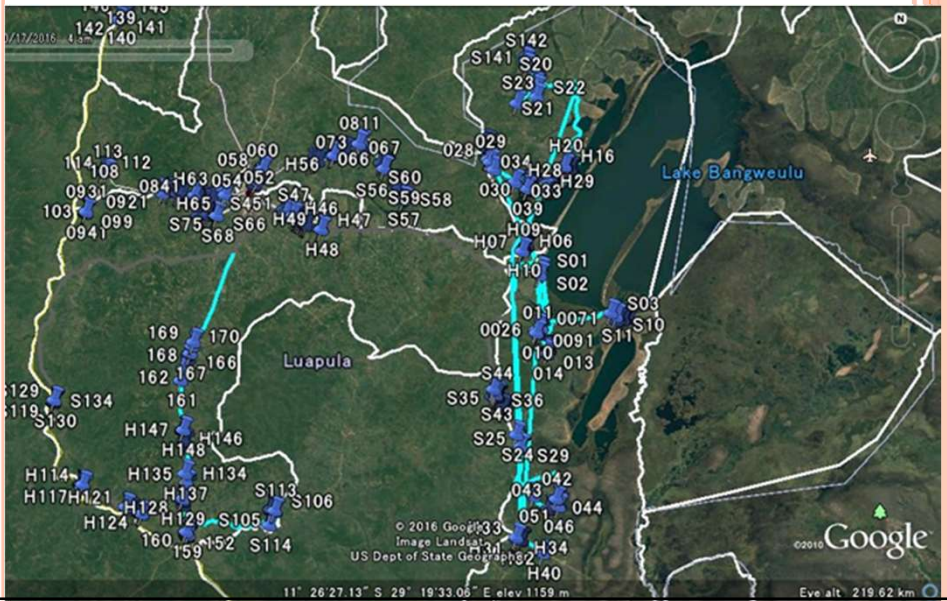
Results from OpenEpi, Version 3, open source calculator--SSPropor
Print from the browser with ctrl-P
or select text to copy and paste to other programs.

アンケート

- 母集団はだれ?
 - どこの部分から
 - どうとる?
- ↓
- ↑
- 反対に考えて・・・
 - 実質的にとれる範囲から考えて、
 - 彼らは、どの母集団を代表していますか?



無作為抽出(なはず)の農家のGPSデータ
(道路沿いに集中している。彼らは代表か?)



質的データのサンプリング

- 有意抽出が中心 :調査に”貢献”できる回答者を選ぶ。
- 貢献できる→ Key Informant
状況を良く知っている人
- 芋づる式: 確信にどんどん迫っていく。(聞き込み)
- 雪だるま方式:**Snow-ball** 最初の人物から次の人物を紹介してもらいながら、対象を広げていく。



演習: 研究テーマ: 自分()と社会
最近の良くいく場所と頻度、関係を書いてください。

場所:_____
頻度:_____
関係:_____

場所:_____
頻度:_____
関係:_____

場所:_____
頻度:_____
関係:_____

場所:_____
頻度:_____
関係:_____

場所:_____
頻度:_____
関係:_____

場所:_____
頻度:_____
関係:_____

あなたの名前

場所:_____
頻度:_____
関係:_____

場所:_____
頻度:_____
関係:_____

場所:_____
頻度:_____
関係:_____

凡例

やすらぎ

普通

ストレス

=====

演習: 研究テーマ: 自分(三好崇弘)と社会
最近の良くいく場所と頻度、関係を書いてください。

場所: 職場
頻度: 週5日
関係: 同僚・上司

場所: 家
頻度: 毎日(夜)
関係: 妻・子2人

場所: 居酒屋Z
頻度: 週1
関係: 大学友人

場所: 整体院
頻度: 月2回
関係: B先生

場所: NPO法人
頻度: 2か月に1回
関係: 同志?

場所:
頻度:
関係:

あなたの名前
三好崇弘

情緒ライン
やすらぎ
普通
ストレス

やすらぎ
普通
ストレス

あなたについて正確に語れる関係者は誰でしょうか?
何人に聞けば、本当のあなたがわかるでしょうか?

場所: 職場
頻度: 週5日
関係: 同僚・上司

場所: 家
頻度: 毎日(夜)
関係: 妻・子2人

場所: 居酒屋Z
頻度: 週1
関係: 大学友人

場所: 整体院
頻度: 月2回
関係: B先生

場所: NPO法人
頻度: 2か月に1回
関係: 同志?

場所:
頻度:
関係:

あなたの名前
三好崇弘

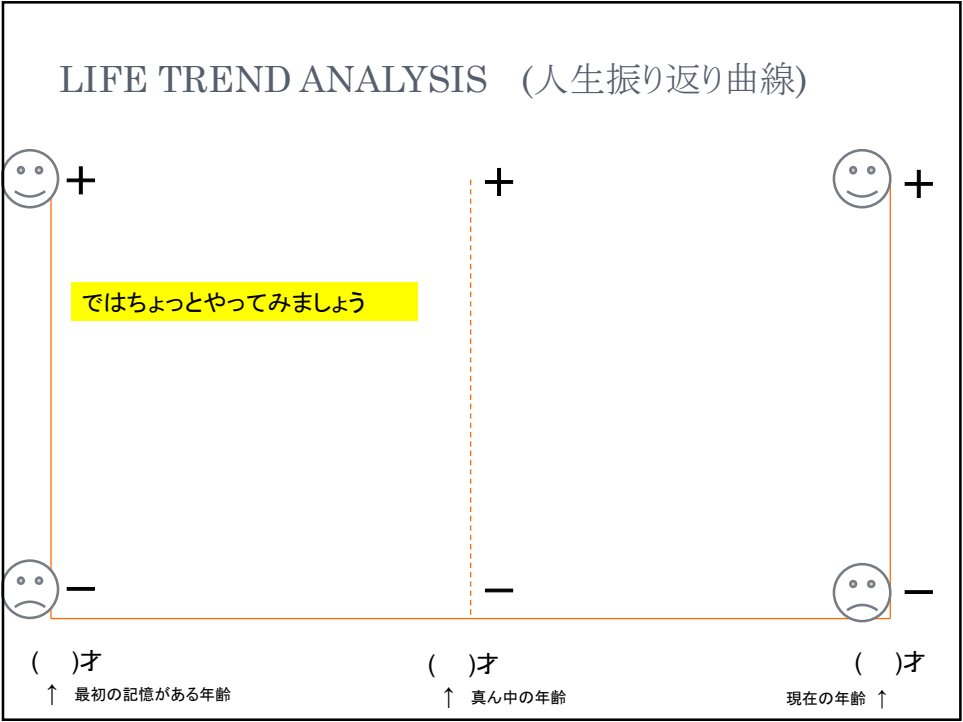
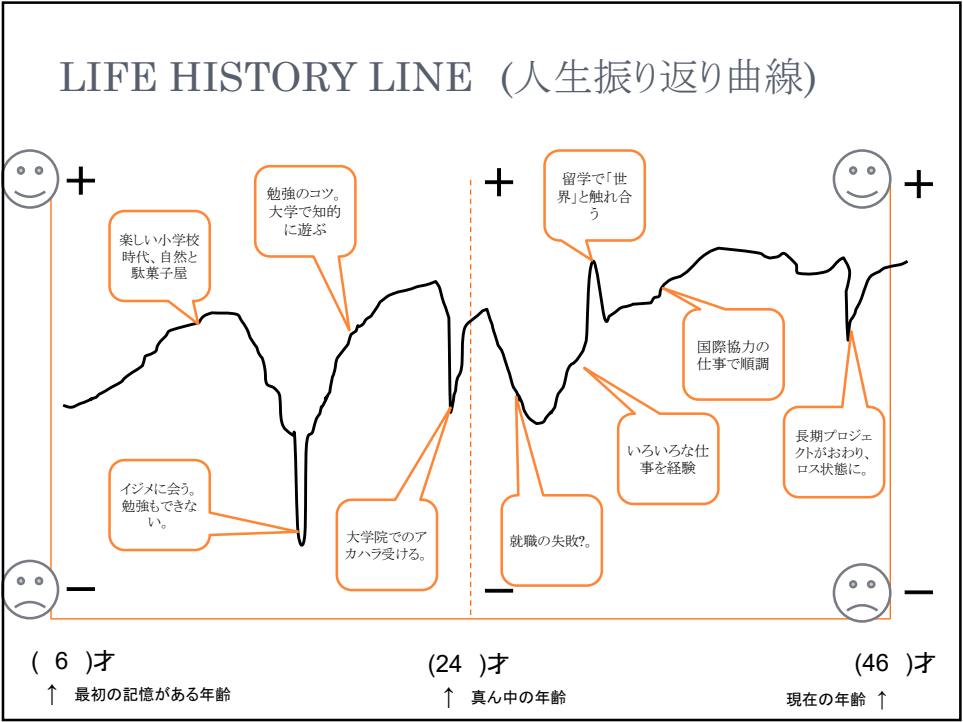
調査の目的
を明確化し、
対象者を絞
ることが必
要。

凡例
やすらぎ
普通
ストレス

やすらぎ
普通
ストレス

評価設問	必要な データ・ 指標	情報源	データ 収集方法	比較基準

評価計画表を確認

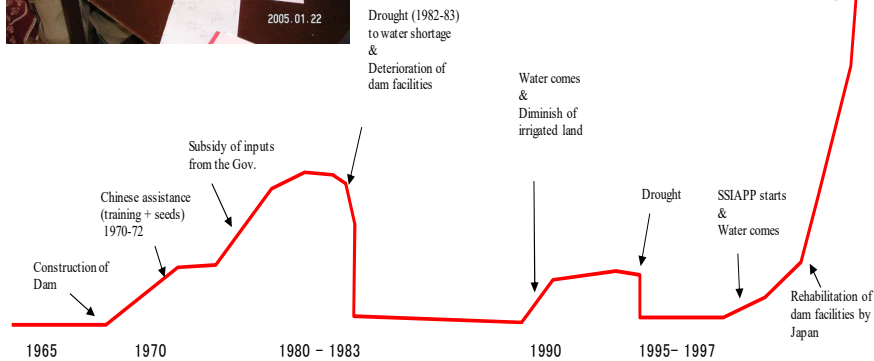


(例) WORKSHOP WITH FARMERS IN GHANA



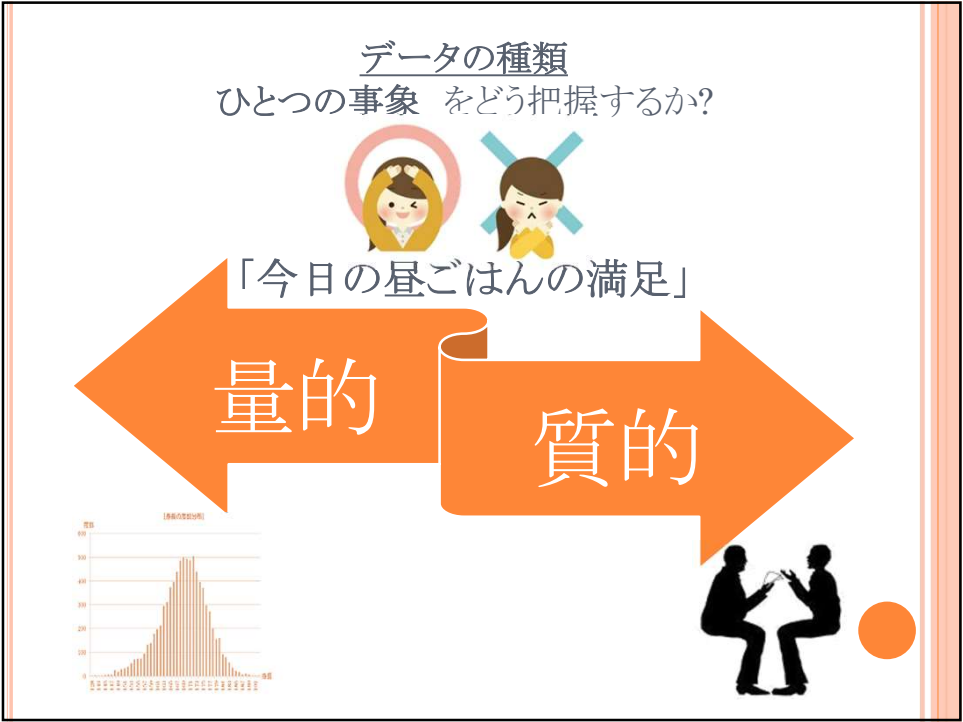
農家の目から見た「状況」や「流れ」、その「要因」

A Trend Analysis of Agricultural Production in Village "A"



今日のプログラム

- 1) 評価とは?
- 2) 評価の流れ
- 3) 評価対象の把握
- 4) 評価設計
- 5) 調査法
- 6) 分析法
- 7) 結論(提言・教訓)



研修プロジェクトの場合	
量的データ	質的データ
<ul style="list-style-type: none">○ 研修の参加者数○ 参加者の年齢○ 参加者の習得度のテストの点数○ 参加者の研修に対する満足度(レーティング)○ 講師の教授法の評価(レーティング)○ 研修参加費○ 1人当たりの研修費用○ 講師の謝金額、等	<ul style="list-style-type: none">○ 研修実施の背景○ 参加者が研修内容で不満に感じたこと・理由○ 研修で最も学んだこと○ 研修で学んだことを今後どのように役立てたいと思っているか○ 研修を受けたきっかけ○ 研修後の職場での変化○ 講師の教授法で良い点、悪い点、等

← 数量化も可能

尺度 (SCALE)

量的データ(Quantitative)

名義尺度 (nominal scale)

区分 (学生番号、血液型、性別等)

頻度、最頻値

順序尺度 (ordinal scale)

大小関係 (競争の着順、学位等)

上記+中央値 (Median)

間隔尺度 (interval scale)

差が等間隔 (テストの点数、摂氏・華氏温度等)

上記+算術平均、相関係数、標準偏差、分散

比率尺度 (ratio scale)

絶対的の原点あり (身長、体重、絶対温度等)

上記+幾何平均、調和平均

“満足度”をどう表すか。

ワイス(2014)「評価学」:p149-

質的データ (Qualitative)

種類

文字テキスト中心

非言語情報が中心

プロジェクト記録

映像記録、映画

報告書/フィールドノート

写真

インタビュー記録

絵画・彫刻・壁画

日記・日誌

楽譜

議事録/行政文書

音楽、音

電子メールブログ/ネット上の記載

舞踏/パフォーマンス

相手の表情/場の雰囲気

量的データにはふくめられない”本質的”な部分を含んでいる。
”感じ取れる” “豊かな” “包括的” ”世界観”がある。

佐藤郁哉『質的データ分析法』より

88

特徴・利点・欠点

量的データ

- 目標達成度合いを数値で示しているため、
 - 比べたり、事例間の平均値やばらつきをだしたり
 - 仮説にもとづいた、データ間の因果関係の強さをはかることもできる。
- ✕ 把握した現象が、なぜそうなったのか(因果関係の仮説建てそのもの)についての情報は得にくい。

質的データ

- 詳細な情報を掘り下げることでもあるため、プログラムに影響を与えた要因、変化のプロセス、エピソードやそれらの相互関係を把握することができる。
- ✕ 平均を出したり、比較したりすることが難しい。分析者の主観に影響を受けやすい。

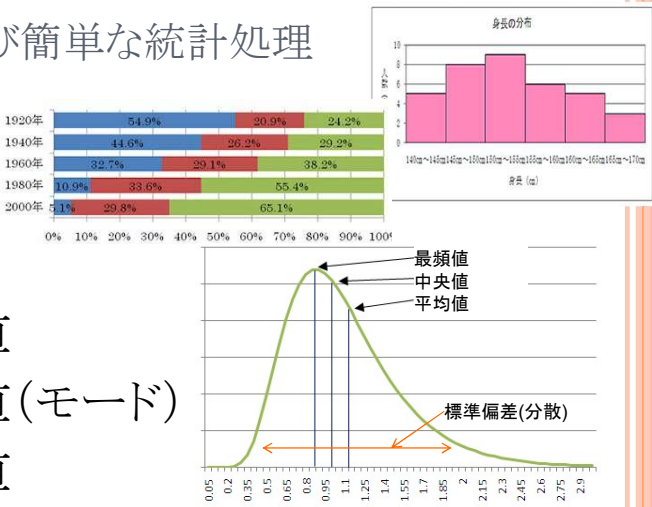
量的データ

量的データの分析方法

- 単純集計
- クロス集計
- 相関係数
- 多変量解析

単純集計及び簡単な統計処理

- ◆ 頻度
- ◆ 割合
- ◆ 代表値
 - 平均値
 - 最頻値(モード)
 - 中央値
- ◆ 標準偏差(平均値からの偏り)



クロス集計

観測値		芳香剤「FlowA」		
		好き	嫌い	計
性別	男	10	20	30
	女	15	5	20
計		25	25	50

期待値		芳香剤「FlowA」		
		好き	嫌い	計
性別	男	15	15	30
	女	10	10	20
計		25	25	50

カイニ乗=ΣΣ(観測度数-期待度数)^2/(期待度数)

カイニ乗		芳香剤「FlowA」		
		好き	嫌い	計
性別	男	1.67	1.67	3.33
	女	2.50	2.50	5.00
計		4.17	4.17	8.33

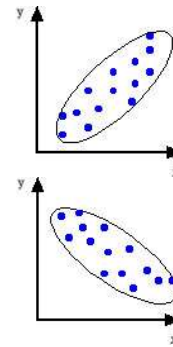
有意水準5%で自由度1のカイニ乗分布表の3.84より大きいので有意。

量的データの分析方法

$$r_{xy} = \frac{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y})}{\sqrt{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2} \sqrt{\sum_{i=1}^n (y_i - \bar{y})^2}}$$

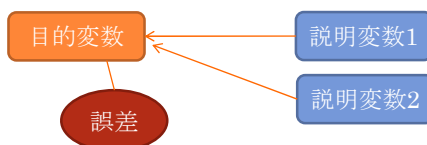
➤ 相関係数

- -1 から 1 の間の実数値
- 1 に近ければ正の相関
- -1 に近ければ負の相関
- 0 に近ければ相関は弱い
- 疑似相関に注意→質的手法での因果関係の分析



多変量解析

- 重回帰分析
複数の説明変数で目的変数を予測
- 因子分析/
複数の変数の背後にある要因を探る
- 主成分分析
複数の変数を合成し、新しい変数に縮約
- クラスタ分析
データを複数の変数から類似しているグループに分類
- 構造方程式モデリング (SEM)
複数の変数をパス図を用いて構造的に分析する。



それではみんなでやってみましょう。
(時間があればにします。)

- パソコンをつかいます。
- パソコンでエクセルを通常つかって仕事をしているヒトを中心に2-3人のグループになってください。
- 以下を行います。
- 単純集計
- 平均の差の分析
- 相関分析
- クロス集計
- 回帰分析



○ 質的データ

質的データの分析

- I. 状況を説明する。
- II. カテゴリー化をする。
- III. 情報の関連性をみる。
- IV. 総合的な分析をする。

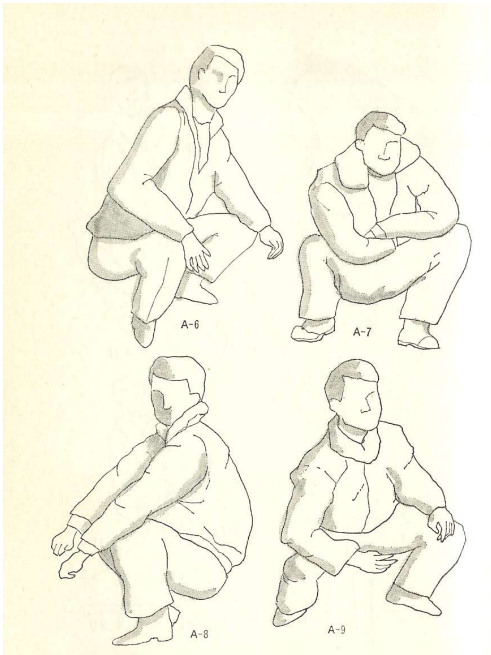
状況を説明する

- 質的データをそのまま活用
- 何が起きているのか、どう認識されているのか、ありのままを伝える。
- エスノグラフィー(民族誌)的アプローチ
- 調査の全体像を報告書の読み手に伝える

参与型観察による調査例

- 佐藤 郁哉 (1984)『暴走族のエスノグラフィー—モードの叛乱と文化の呪縛』
 - 「暴走族という、現代の日本に生息する一部族」についてのエスノグラフィー
 - 京都の右京連合という暴走族に密着。
- 小国 和子 (2003)『村落開発支援は誰のためか—インドネシアの参加型開発協力に見る理論と実践』
 - 国際協力プロジェクトのエスノグラフィ

(佐藤郁哉, 1984
『暴走族のエスノ
グラフィー—モー
ドの叛乱と文化
の呪縛』P241 図7



各事例をよんで、この人はなぜこのような意見をもったのか、ストーリーを考えてみましょう。(マトリックスを横ぐしでみる。)

	質問1	質問2	質問3	事例分析
Aさん				<div>Aさんは～という～で、～だから～だ。</div>
Bさん	<div>～という期待をもっていたから～という評価になった。</div>	<div>～という期待をもち～という評価だったので、～といった。</div>		
Cさん				
共通項				<div>ひとりひとりのストーリーを 読んでみて納得できるか。</div>

カテゴリー化をする

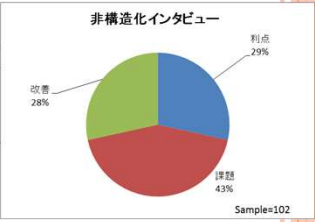
- ◆ 同じ概念ごとにコーディング(キーワードをつける)し、分類(カテゴリー化する)
- ◆ コーディングにはバイアスがかかるので、作業は複数で行うことが望ましい。

等



事例: ある市の地域おこし調査

	5	6	7
氏名	〇〇市に来る前にイメージはありましたか?	来てみて、イメージは変わりましたか?	〇〇市のいいところ、魅力は何ですか? (高齢者の場合、昔と今の比較)
Aさん	いいイメージ。海がちかくで、散歩がしやすいイメージ。	来てよかった。時間がたっぷりあり、2時間歩いている。	やっぱり海。釣りし放題。干潮のときに投げ釣りができる。
コード1	利点	利点	利点
コード2	自然	健康	釣り
Bさん	いいイメージ。自由な時間を散歩したいし、景色もいい。	散歩する場所がたくさんあって、楽しい。	海の駅、オライ、イチゴロードなど、施設や見どころがあるのがいい。イチゴ狩りも楽しい。
コード1	利点	利点	利点
コード2	健康	健康	観光
統合コード	利点_健康	利点_健康	利点_観光
山崎さん	岩手から千葉に来るときは東京に近い、一人部屋、TDLに近いということでウキウキしながらきた	和南田んぼが多くて田舎だった。でも、都会はくなくて、それはそれでよかった。イジメとか教育格差とかなかった。地域の人たちもよくしてくれた	買い物に便利で、Bioハウスとか安くて、悲鳴を上げた。またこのインタビューとかアンケートとか、行政が一生懸命で



第二段階コード	頻出	割合
子育て	20	20%
まちづくり	9	9%
高齢者	9	9%
観光	9	9%
若い人	8	8%
行政	7	7%
市民交流	7	7%
中間組織	5	5%
暮らし	4	4%
産業	4	4%
市民活動	4	4%
農業	3	3%
自然	2	2%
医療	2	2%
情報発信	2	2%
教育	1	1%

演習3:各質問に頻発するキーワードを共通項に書きだして、分析してみましょう。(簡易マトリックス法)

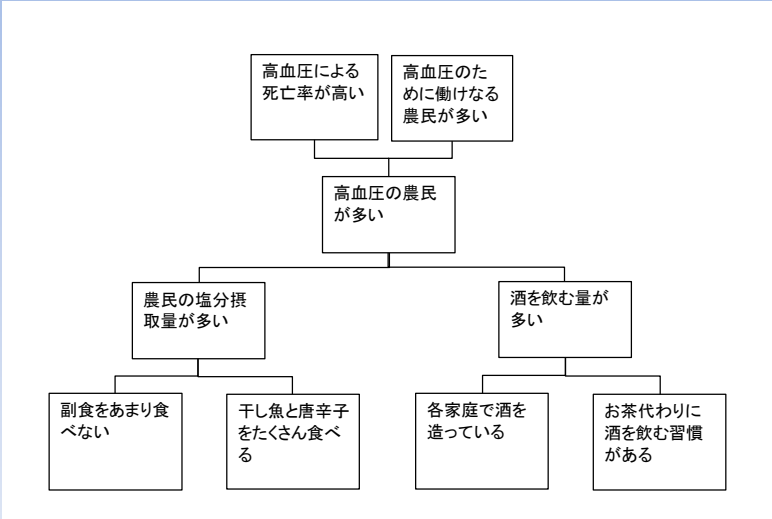
	質問1	質問2	質問3	事例分析
Aさん				
Bさん				
Cさん				
共通項	頻発するキーワードや類似する概念はあるか。 それがどうつながっているか。			

情報の関連性をみる。

- ◆情報相互の関係(因果関係/論理性)をみる。
 - KJ法
 - PCM計画手法の問題分析
 - ロジックモデル、フローチャート



PCM・問題分析の適用事例



(出所) 関谷ほか(2013)を参照して作成

105

より総合的な手法

(色々なやり方がありますが一般化すると・・・)

○ 1)データの分割 (セグメンテーション)

各事例の質的データ、例えばインタビューのデータ(答えそのものや、聞き取りノート)を細かく分割する。細かさのレベルは、それぞれが一つの意味・メッセージを含む程度に分割する。

○ 2)キーワード(コード)の発見 (コーディング)

分割したデータの意味を一言で示すようなキーワード(正式にはコード)を当てはめる。コードは、最初は暫定的に自由に、分析が進むごとに、後で分類整理が可能な程度に同じ言い方でつけていく。

○ 3)コードのカテゴリー化や再構成・再文脈化

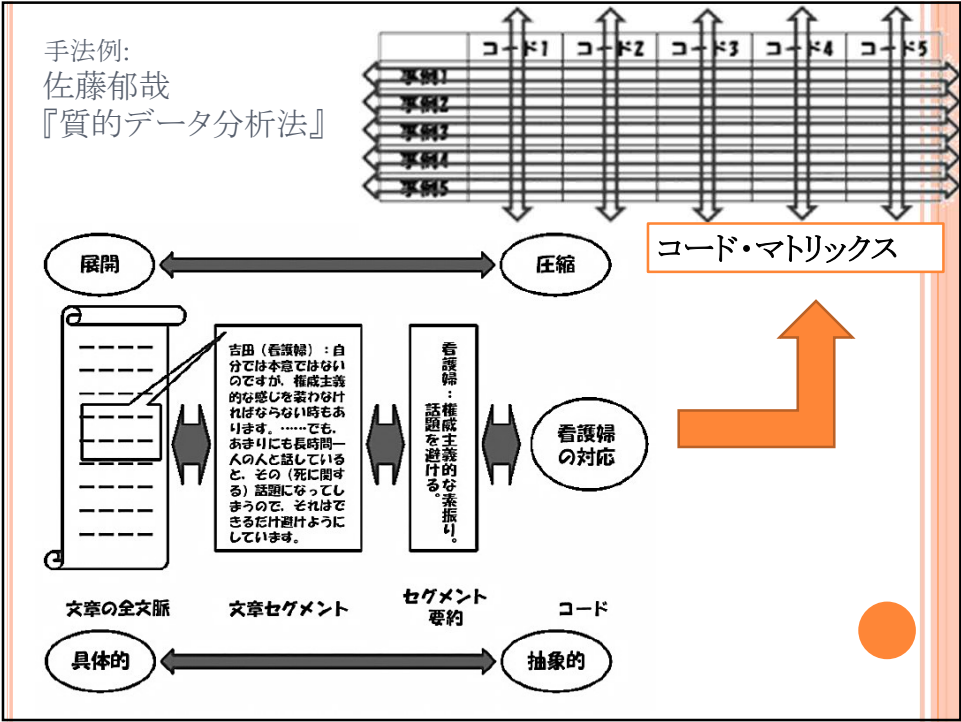
事例とコードでマトリックス(表)により整理する。コードで同じ内容のものをカテゴリー化したり、因果関係で整理できるように再構成したりする。

○ 4)全体的な背景・概念・理論の発見

カテゴリー化や再構成を繰り返し、現象の説明理論を明らかにする。

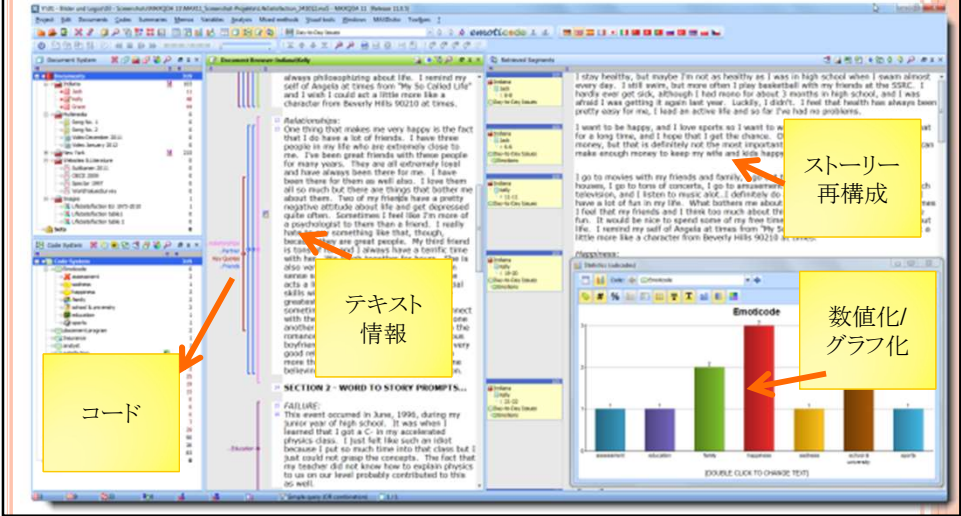
佐藤郁哉『質的データ分析法』を参考





QDAソフト (例: QDA MAX, 5万円!)

- コンピューターの発達にともない、テキストのキーワードを集計したり、統計処理したりすることが容易となった。



QDA ソフト
(入手しやすいもの)

○ QDA Miner Lite (無料版で基本的な集計のみできる。フルバージョンは10万円!)

○ RQDA (無料統計ソフトRの機能の一つ。フル機能が使えるが、要プログラム。今後に期待!)

総合的な分析
(グランデッドセオリー?=> 因果関係の全体像)

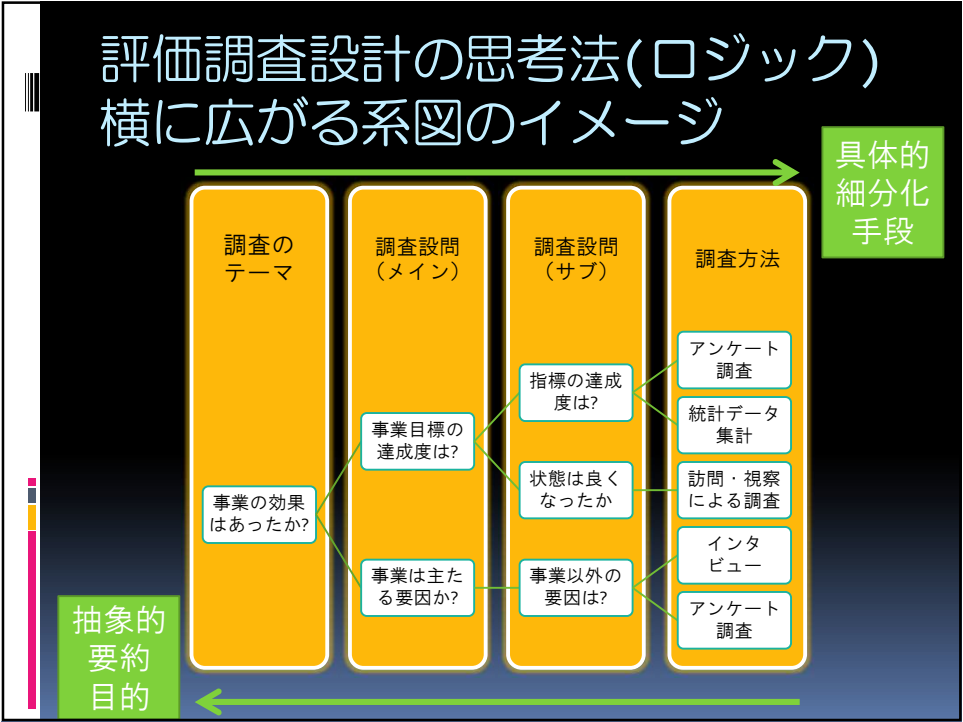
調査対象者	質問1への答え	質問2への答え	質問3への答え	事例分析
Aさん				<div>ひとりひとりのストーリーを 読んでみて納得できるか?</div>
Bさん				
Cさん				
コード化 カテゴリー 分析	<div>頻発するキーワードや類似する概念はあるか。</div>			<div>全体を説明する ような 根底的な理論</div>

今日のプログラム

- 1) 評価とは?
- 2) 評価の流れ
- 3) 評価対象の把握
- 4) 評価設計
- 5) 調査法
- 6) 分析法
- 7) 結論(提言・教訓)

結論 CONCLUSION

- 結論は、評価目的に対する答え。
- 終了時であれば、やめるのか続けるのか、中間であれば、このままでいいのか、大きな変更が必要なのかなど。
- 評価6項目の要約ではない。
- 共通する促進・阻害要因について、記述する。
- それが提言と教訓につながる。



提言 **RECOMMENDATION**

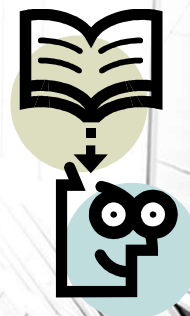
- プロジェクトの改善に向けた
- 具体的で、
- 実行可能、かつ
- 有効性が期待でき、
- その責任者が明確な
- (納得できる)
- 内容であることが重要。

教訓 **LESSONS LEARNED**

- 他のプロジェクトへの教訓
- でも、実際はあまり実務者には重視されていないので、結構自由にかけます。(という印象です。By 三好)
- なので、この部分については、プロジェクト実施者とともに、ワイワイみんなで作ることも可能。

評価調査企画書の構成(思い出し)

1. 背景
2. 目的
3. 主な成果物
4. 主な活動/ スケジュール
5. 必要な投入(機材)
6. その他



評価調査報告書の構成(簡易版)

- 1. 背景
- 2. 目的
- 3. 実施した活動/ スケジュール
- 4. 結果1(データ収集結果)
- 5. 結果2(データの分析結果)
- 6. 結果3(目的への回答)
- 7. 結語/ その他

評価調査設計の思考法(ロジック)
横に広がる系図のイメージ



ちょっと考えてみましょう。

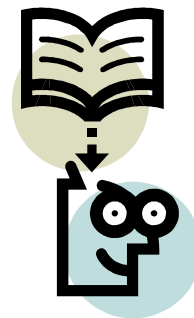


- いままで誰かから良い提言・助言を受けたのに、それを実施しなかったことはありませんか？
- なぜできなかったのでしょうか？
- 反対に提言・助言したのにされなかったことはありませんか？
- なぜされなかったのでしょうか？



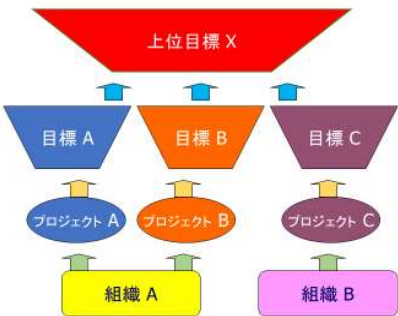
演習

- 自分のケースで、
- 「提言」や「教訓」を
- 理解・共感してもらい、
- また実行してもらうために、
- どのようにフィードバック(伝える)ことが効果的でしょうか？

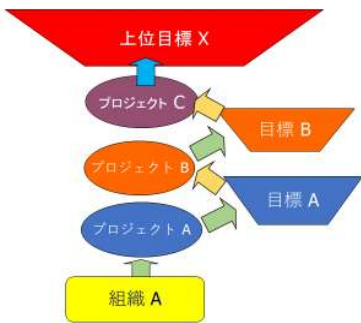


出口戦略＝ 次のレベルへ

- このプロジェクトが完了すると、
- 次はどのプロジェクトにいくべきか？
- その先は？



プログラム (複数プロジェクトの統合)



ローリング・プラン (長期的な実施計画)

しっかり学びたい人は・・・
『プログラム評価ハンドブック』



楽しく学びたい人は・・・
『事業評価ワークブック』

